

## 担当課ヒアリングについて

### 目的

二次評価では担当課の自己評価の妥当性について評価を行っていただきましたが、ヒアリングでは主に計画そのものや進め方、指標の設定について担当課と直接意見交換を行い、より効果的・効率的に進めていくためにはどうすればよいか提言をいただきます。

### ヒアリングスケジュール案

第4回市民委員会（12月開催予定）、第5回市民委員会（1月開催予定）の2日間で開催予定

（当日のスケジュール案）

	内 容	時 間
開 会	あいさつ、ヒアリングについての説明	5 分
ヒアリング 1 課目	担当課説明（5 分） 質疑応答（25 分）	30 分
ヒアリング 2 課目	担当課説明（5 分） 質疑応答（25 分）	30 分
ヒアリング 3 課目	担当課説明（5 分） 質疑応答（25 分）	30 分
ヒアリング 4 課目	担当課説明（5 分） 質疑応答（25 分）	30 分
閉 会		

### ヒアリングでの視点（一例）

- ・計画を効果的、効率的に進めるにあたって、改善点や加えるべき視点、考え方はないか
  - ・民間の立場から方法や進め方についてアイデアや助言等はないか
  - ・進め方についてスピード感はあるか
  - ・指標の設定は適切か
- 等

### 対象計画候補案

詳細は資料 5 参照

### 参考（昨年度のヒアリングの様子）



## 実施計画別 外部評価結果

ヒアリング実施日：令和3年11月12日

実施計画	地域住民との連携による公共交通の維持・確保
担当課	交通政策課
現状	
<p>鳥取市では、公費負担の増大や運転者不足により、地域交通の軸となるバスや、タクシーの確保が困難になり、地域の実情に応じた持続可能な地域交通の確保が急務になっている中、不採算バス路線への再編に当たり代替交通としてタクシー事業者が運行する乗り合いタクシー、NPOやまちづくり協議会が主体の地域による共助交通の導入の推進を進めている。</p> <p>令和2年度は、路線バス等が廃止、減便になる佐治、青谷地域で検討会を開催し、地域ごとに実情に合った生活交通のあり方の検討や、生活交通に関する住民の意識調査を実施したほか、佐治地区では共助交通の本格運行に向けた実証運行を実施した。併せてバス路線の再編に向けて各事業者との検討を重ねている。</p>	

総評	
<p>地域と市が一体となって地域の課題解決に向け取り組むことは非常に良いことと考える。</p> <p>一方で、路線バスの廃止により、生活の利便性が大きく低下することだけでなく、不便な所であるとラベリングされて地価が下がるなど様々な影響があると考えられる。地域が支える延命措置的な取組ではなく、多面的な視点から将来的に持続可能となるような公共交通の確保策が必要である。</p> <p>共助交通を進めることは大切だが、赤字補填の増大や運転手不足を解消するため路線バスを減らし、その代替案として地域住民に責任を転嫁しているように感じる。共助交通だけでなく大きな政策課題の中で、市として地域交通をどのように確保するかの目標を明確にしたい。</p> <p>市が他の分野と連携してメリット(波及効果)が大きい交通網を整備するなど、今までと発想を変えていかないと、抜本的な解決に繋がらないと考える。</p>	

個別意見等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>交通弱者の方のことを思うと交通手段を確保すべきと思う。地域交通を支える側だけではなく、使われている方の声はとても大切なので、地域の検討会等で十分に反映できる仕組みがあればよい。</li> <li>共助交通は、将来的には現在有償運送している方が利用者になり、その次の世代が有償運送する側、と世代交代していくものなので、次の世代のコミュニティを作るなど、継続に向けた取組が必要ではないか。</li> <li>海外には、鳥取市よりも小さな人口規模で立派な公共交通を維持している国や地域がたくさんあり、大半が地域のインフラとして考えている。日本のように、民間事業者の営利事業だと考えている国はほとんどないことを考えると、SDGsの目標である、「住み続けられるまちづくりを」からは大きくかけ離れており残念な気がする。</li> </ul>	